

3 設 計

Q-31 フラットデッキと合成デッキ等を併用する場合の設計および施工上の注意点を教えてほしい。

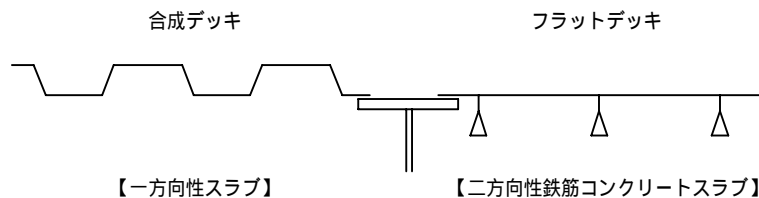
A

フラットデッキ（RC スラブ）と合成スラブ等、他構造となる床スラブが隣接する場合は、その境界部には支持梁を設け、それぞれスラブの縁を切ることが望ましい。

また施工上も支持梁（形鋼等）を介する方が納まりがよく、デッキ相互の接合不良やたわみの差異によるノロ漏れの防止等にもなります。

例えば外周部パラペットの配筋（下端筋定着）の干渉の問題等により、部分的にフラットデッキを用いた RC スラブとして設計するケースがあります。

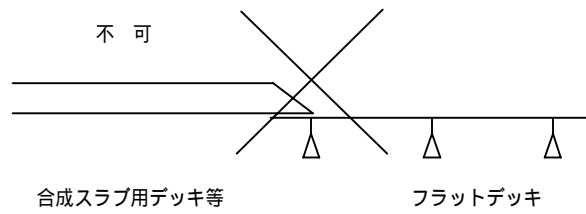
こういったケースも含めて、合成スラブと混在することが予想され、その境界部となり得る部位については十分事前検討を行い、予め小梁を配置しておくことが肝要です。



境界部に支持梁を設けた例

設計上やむを得ず梁を入れられない場合、まずデッキ相互の接合を溶接またはビス等により確実に行う必要があります。この場合の主な注意事項を下記に挙げます。

- ・ 薄板同士の接合となるため、溶接の場合焼き切れ等溶接不良となる可能性がありますので、十分注意して施工してください。
- ・ 境界部の配筋方法について、設計上十分検討しておく必要があります。
（デッキ直交方向の下端筋定着方法等）
- ・ フラットデッキはカンバー（むくり）がついており、他の合成スラブ用デッキ等と重ねた場合、ノロ漏れの原因となる可能性もあるため、施工上十分な注意が必要です。
- ・ 次頁の図のように、他のデッキの強辺方向支持端部を直交するフラットデッキ（端部リブ）で支持することはできません。フラットデッキとは別に支持部材を設置する必要があります。



注意事項

合成スラブから一部フラットデッキ型枠を用いた RC スラブへの変更等については、主要構造部の変更となること、計画変更確認の手続きが必要となること、その他各種検討事項が発生しますので、あらかじめ十分注意が必要です。